

まちの日記帳



少年教室

「鳥の巣箱づくり&設置体験」

B & G海洋センターを会場に、積丹町に生息する野鳥の生態について学び、町内の動物の暮らしを身近で体験。巣箱をつくる意味や、どんな野鳥が巣箱を利用するのかを学び、ペイントした巣箱を海洋センター周辺の小さな雑木林に設置しました。

子どもたちは、好きな色を塗った『自分だけの巣箱』をつくり、野鳥が来る春の訪れが待ち遠しい様子でした。



楽しく身体を動かそう！

「積丹ジュニアスキー大会」

積丹町体育協会（会長：石川 一寿（美国町））主催の積丹ジュニアスキー大会が野外スポーツ林スキー場で開かれました。

今年は暖気による雪解けが進み、開催が危ぶまれましたが、子どもから大人まで幅広くたくさんのかたが参加し、大会は大いに盛りあがりしました。

石川会長は「コロナも明け、外に出てたくさん体を動かして色々なアクティビティで楽しんで欲しいので、喜んでもらえて嬉しいです。来年もぜひ開催したい。」と語っていました。



みんな健やか・大きくなあれ

保育所・ひな祭り会

びくに保育所、みなと保育所、子育て支援センターで「ひな祭り会」が催されました。

自分たちで作ったひな飾りを紹介し、「うれしいひなまつり」の歌を歌ったり、ひな祭りにちなんだゲームも楽しみました。

びくに保育所では、0歳児～5歳児が「桃の花」探しや「おびなめびなりレー」を行いました。

子どもたちは、おびな・めびなに変身して写真を撮り、次のお友達に交代し、リレーを楽しみました。



積丹の魅力写真を発信！

「積丹観光フォトコンテスト」審査会

3/7

積丹観光協会（佐藤勝次会長）は、9月1日～2月29日の6か月間、町内外から広く募集した作品の審査会を行いました。

日本写真家協会会員の久保田先生のほか、佐藤観光協会会長など5名の審査員による厳正な審査の結果、受賞者が決まりました。

今年は、四季部門に22名から74枚の写真、おもいで部門に13名から49枚の写真がエントリーされ、どの作品も撮影者や被写体への想いが詰まった力作ばかりでした。

残念ながらグランプリ受賞者はいませんでした。応募作品は積丹観光協会ホームページへ掲載予定ですのでぜひご覧ください。



▲準グランプリ
「灼熱のみこし」
岡本 哲夫氏（奈井江町）

▼準グランプリ

「落陽の海岸」

田澤 康史氏（奈井江町）



来年の冬は積丹で「国際大会」を！

「積丹雪中かくれんぼ大会」

3/10

（一社）日本かくれんぼ協会（高山 勝代表理事）の公式サイトなどから積丹町開催を呼びかけ、東京都や宮城県など道内外から35人がサクラマスサンクチュアリセンター（余別町）に集まりました。

かくれんぼの国際大会のルールは、缶蹴りに似ており、缶の役割となる目印について1本の木（ホームベース）をSTAFF ビブスをつけた鬼よりも早くタッチして得点を競います。（写真下）

全12チームでの対決で、参加者は、森の中で自然の草木を利用して上手に身を隠しながら、鬼との駆け引きを楽しみました。（写真上）

雪の中でのかくれんぼは世界初の試みで、高山代表理事は「冬の積丹町の新たな体験メニューの可能性と関係人口創出機会の一助として、毎年の恒例イベントにし、盛り上げていきたい。」と今後の展望を熱く語りました。

令和6年度は、令和7年2月23日（日）の開催を予定しています。

《参加者の声》

おおにしたかほ

・東京都練馬区・大西高歩さん（10）

「最後に一人だけ得点ができてよかった。雪の中でのかくれんぼは初めてで、隠れやすくて楽しかった。」と満面の笑みで語ってくれました。

大西さんは、以前神奈川県で開催された大会に参加した際にかくれんぼに魅了され、今回は2回目の参加でした。



北後志消防組合積丹支署

— 消防ニュース —

5支署職員救急研修会

3月1日、余市消防署で北後志消防組合救急研修会が開催されました。

講師に札幌医科大学付属病院救急医学講座の医師2名を招き、余市協会病院医師1名と北後志消防組合職員総勢49名が参加。コロナ禍を経て5年ぶりの対面開催は、積丹支署が中心となり企画・運営・座長を務めました。

各支署（積丹町・古平町・余市町・仁木町・赤井川村）の症例発表は、救急出動時の苦慮事案共有ができ、今後の現場活動の参考となりました。



また、札幌大医師から口頭指導・心肺蘇生・救急救命士の処置・搬送時間に関する講義を通して救命処置について理解を深めました。今回学んだことを地域住民へ還元出来るよう、知識・技術の向上に努めます。

「もしも」に備えて

炊き出し訓練

3月13日、積丹女性防火クラブ連合会（山崎美枝子会長・会員330名）会員20名が非常時の炊き出し訓練や避難所の開設を想定したダンボールベッドの製作訓練を行いました。

消防職員から避難時の注意事項や火災予防の講話を聴き、災害時の対応方法を学んだほか、炊き出し訓練では、大型の釜を使った炊飯や他人丼、ポテトサラダ、味噌汁を作りました。

「災害時は、自助・共助・公助が重要で、日頃の備えが大切。今後も毎年継続します。大変実りある訓練でした。」と、播磨積丹支署長が講評しました。



地域おこし協力隊レポート

Information

3月1日現在、15名の『地域おこし協力隊』が委嘱され、町内の団体や事業所で活躍しています。各隊員の活動内容や今後の目標などを広報しゃこたんで連載しています。

【所属先】

はっとり 服部 美幸 隊員



【積丹スピリット】土日祝は、蒸溜所見学ができます。受付は、岬の湯しゃこたんです。

積丹ブレンド珈琲の提供もしていますので、ハンドルキーパーの方や、地域の皆さんの集まりなどでぜひご利用ください。お待ちしております。

ほそかわ 細川 菜々子 隊員



【SHAKOTANGO】

コミュニケーションとして、町内で活躍している方々とのつながりを大切にしながら、岬の湯しゃこたんの運営に頑張っています。

廃棄物を活用したサステイナブルな商品の販売や、地場の食材を使用した食堂作りに取り組んでいます。

くにみ 国見 祐介 隊員



【しゃこまる】

冬季はバックカントリースキーやスノーシューツアーを実施しました。全国的に雪が降らなくなり、山に雪があるだけで観光資源となりつつあるので、今後も、雪を利用した体験プログラムを考えていきます。

みねした 峯下 みさき 隊員



【柳流山】

牧場では、母羊が出産シーズンを迎えています。生まれた子羊は、夏には放牧し、積丹の昆布を食べ、秋には美味しいお肉となってくれます。

今年の秋、町民の皆さんの手元において、おいしい羊肉が届くよう精進します。

7月号から紹介してきた『地域おこし協力隊レポート』も令和5年度最終回となりました。

4月に10名だった隊員も、15名に増え、力強い積丹応援団として町内外で幅広く活躍する隊員にこれからもご注目ください!

(広報担当)